



第4号

「PMFを応援する会」会報

協奏

2011年11月21日

特集：L・バーンスタインを偲んで・・・「ニドム」への旅（2P・3P）

ご挨拶

「PMFを応援する会」 会長 竹津宜男



「PMFを応援する会」への日ごろの変わらぬご支援に心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

今年、日本は世界を震撼させた災害を経験しました。お

身内や親しい人を失った方に心からお悔やみを申し上げます。また、いまだにご自分の家に住めない大勢の方々がいらっしゃることに心が痛みます。

「がんばれ東北、がんばれ日本」。

「PMFを応援する会」は世界平和に貢献するPMFの更なる発展を願い、皆さんと共に音楽を通じて、経済的な応援だけでなく、PMFと市民の心を繋ぐ努力も続けます。

4月と7月には「PMFカフェ・サロン」を開催し、

それぞれ約100人の熱心な市民の方々と一緒に時間を過ごすことが出来ました。

7月31日には「ピクニック・コンサートで会いましょう」を札幌芸術の森アリーナ・ロビーに“店開き”して多数の方々と楽しい語らいが出来ました。

また10月には、1990年の第1回PMFの開催のために、病を押して来札したPMF提唱者のL・バーンスタインが3日間の休養で奇跡的によみがえったホテル・ニドムを訪れる「PMFニドム・ツアー」を行い、31人の参加者はあらためてPMFファウンダー、L・バーンスタインの思い出にひたりました。

これからも演奏会場や私どものこうした取り組みの中で、皆さまにお目にかかれる機会が持てますようお願いしております。今後ともよろしくご支援をお願いいたします。

2011年度「PMFを応援する会」活動 中間報告 （2011年4月1日～10月31日）

▶事業中間報告（主たる項目のみ）

- ・4月25日 2011年度総会・・・2010年度事業報告及び決算報告、2011年度事業計画及び予算の決定、役員改選
- ・4月15日「PMF2011カフェ・サロン」第1回開催、5月20日(公財)PMF組織委員会に「PMF募金」80万円を寄付
- ・6月21日「協奏」第3号発行、7月14日「PMF2011カフェ・サロン」第2回開催
- ・7月31日「ピクニックコンサート」で会いましょう”開催、
- ・10月6日「ニドム・ツアー」実施

▶募金状況の中間報告

2011年10月31日現在、皆さまからお寄せいただいたPMF募金は232件、金額にして782,477円です。

皆さまのご協力に心から感謝申し上げます。ただ、今年度の募金目標150万円に対しては、いまだ達成率は52%で、後半により一層の努力が必要としています。皆さまのより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。なお、募金状況や当会の詳しい活動状況につきましては当会のホームページをご覧ください。ホームページは「PMFを応援する会」で検索してください。

断想 「りめんばー 9・11 ! (10年の歳月)」

PMFセンター 初代社長 小林 敦

毛筆で書きなぐったようにかすれた文字のイメージの日。いまわしい映像を振りはらうことはできない。日本人の犠牲者も 24人をかぞえる遺族らの集会在今年(2011年)9月10日 NY日本協会でおこなわれた。そこに NY在住の PMF修了生が出演し平和を願う PMFの精神を会場に響かせた。



写真説明: 「PMF修了生の演奏」(NY 9.10)

「Honor, Remember Reunite」(NY 9.11)

勇士をたたえランプを点滅した赤い消防車のパレード。カーネギーホールのよこを歩きながら、ぼくの個人的な PMFのタイムカプセルを掘りおこしている。それは、米中文化協会と LBオフィスなどの企画「YCO (ヤング・チャイナ・オーケストラ)」の資金集めに関わったことにはじまる。ぼくらの関心は バーンスタイン指揮・ロンドンシンフォニーの日本縦断公演にあった。(本紙註 LB; レナード・バーンスタイン)

1989年。実に 22年ものむかしにおきた世界的津波のような出来事に直面してきた貴重な体験でもある。

二つの怒濤——

* 6月4日天安門の問題でYCO中国企画が不可能になり、関係者らの意志の確認や調整のために NY-ROME-SAPPOROを飛び回ることになった — 名称は PMF。場所は札幌。

* 11月9日に壁の崩落したベルリンで、そのクリスマスにLBは第九を指揮し、「歓喜の詩(Freude)」を「自由(Freiheit)」にかえて合唱したという。氏の生涯のメッセージとして残された PMFに、つよく独創精神が宿されているように思う。

今年 NYから帰って10月6日。「PMFを応援する会」らのニドムへのバスツアーへの誘いは、今回一連の PMFルーツの旅のメとして草鞋をぬぐにふさわしいものであった。LBの使ったピアノや思い出のつまった部屋、石川オーナーの勇断による受け入れなど、ぼくのカプセルのなかの記憶と感謝の念がよびもどされた。1990年6月21日、LBのニドムへの到着が PMFのさいごの陣痛である。そして6月26日「札幌芸術の森」で呱呱の声をあげ、7月14日までのエデュケーションの日々。うすいガラス細工のような産着の「PMF」が誕生した。



奇跡的な好運に支えられてきた、アカデミーを軸とした「国際教育音楽祭 PMF」はいまも才能あふれる若者たちを札幌から世界に送り出している。音楽をとおして培われた精神を、困難にある人やよろこびをえた人たちとともにし、それぞれの現場で率直な表現の場がもっとあればと思う。PMFにかかわってきた人たちのこれからの課題でもあろう。(古葉東風 記; PMFセンター 初代社長)

(本紙註; 小林敦氏は、1990年のPMF創設に際して本記のような経緯でご尽力され、第1回PMFの開催実現や、その年のNY「バーンスタイン追悼ミサ」で板垣札幌市長(当時)のPMF継続宣言の立会いなど、PMF草創期以降も引き続き奔走されました)

「PMFを応援する会」のホームページでは、「証言~PMFの軌跡と未来へ~第2部」が好評連載中です。PMFの草創期の貴重なエピソードが綴られています。その他、当会主催の事業のご案内等、盛りだくさんの内容が満載です。是非ご覧下さい。 「PMFを応援する会」でクリック!!!

ニドムでバーンスタインを偲ぶ 渡邊 悟

ニドムでは、バーンスタインが1990年PMFで来道の折に過ごした「バーンスタイン・メモリアルホール」を見学。今は結婚式の教会として使われている巨大なログハウスは、彼をして「ニドムが私を生き返らせた」と言わしめた通りその厳かさに圧倒された。そのホールにあるバーンスタインのサイン入りのベーゼンドルファーを使用しての山本真平氏の演奏は、ホールの荘重さにもマッチして柔らかで深々とした音色であった。21年前の7月、「札幌芸術の森」でバーンスタインとロンドン響が演奏したシベリウスの交響曲第1番。今にも止まりそうなテンポに鬼気迫るものを感じ、終演後には力尽き、支えられて舞台を去る彼の姿にこれが最後ではと感じた。その光景をふと思い出しつつピアノの余韻に浸っていた。

ニドムを訪ねて 香川 敦子

雨のために外が暗かったこともあり、「月の光」が流れると、まるで催眠術にかかったかのような体が沈む感覚に包まれました。空気さえも動かない静けさ・・・木の香り、薪の音が加わり私の五感に心地よくフル回転。こんな「月の光」を聴いたのは初めてでした。

そして、つらい体を休めながらバーンスタインが見た月の光はどんなだったのだろう、どんな思いで夜を過ごしたのだろうと想像しました。彼の思いはPMFを目指す人、その真っ只中にいる人、そこから羽ばたく人によってリレーされ、継続が間違いなく力になっていくことを見通していたのでしょうか。この「リレー」に欠かせない応援を「ギャラリー」の端から送り続けたいと思います。

「奇跡の音楽祭・PMF」ゆかりの地 「ニドム」を訪ねて。

この小旅行は、来年度に向けて、われわれボランティア組織として担えることは何かと模索する中、多くの市民と「奇跡の音楽祭・PMF」ゆかりの地「ニドム」を訪問し、あらためて創始者の遺志を考えてみよう・・・と企画しました。秋のニドムはゲートをくぐるともう別世界！ 小雨に輝く緑が美しい場所でした。バスは重厚なフィンランド・シルバーパインのメモリアルホールへ直行。レニーがサインしたピアノの名器・ベーゼンドルファーにカメラを向ける参加者のみなさん。ぱちぱちと時々爆ぜる暖炉の音を聞きながら、竹津宜男会長からレニーの思い出を伺い、加えて、軽井沢からわざわざこのプログラム参加のために駆けつけてくださったPMFセンター元社長の小林敦氏のお話も加わって、1990年奇跡的に札幌開催となったいきさつなど、参加者の皆さまには初めての感動的な「PMF物語」が展開されました。そして、今年度PMF公式ピアニストだった山本真平氏のピアノ演奏の後、レストランでランチタイムを満喫しながら、参加者の間でさまざまな交流がはかられました。

(記：「PMFを応援する会」事務局次長 三坂 桂子)



「ニドムツアー」に参加して 武田 滋子

「ニドム」の看板を抜けると、そこは美しい緑と白樺の木々、まさに都会のオアシスが我々を迎えてくれました。ホテルロビーのバーンスタイン・コーナーで、氏のアルバムや直筆の音符などを見学し、「バーンスタイン・メモリアルホール」へ向かいました。氏がリビングとして使用していた小さなチャペルは、フィンランドから取り寄せたと言う大きな丸太のログハウス風で、氏のサイン入りのベーゼンドルファーが、大きな存在感で置いてあり、いたる所に思い出がちりばめられていました。そこでホテル関係者や竹津さん、当時のPMFの関係者の皆さまから、バーンスタイン、そしてホテルニドムにまつわるお話を大変興味深く伺いました。完璧な空間の中での豊かな時間は、あまりにも早く過ぎ、名残惜しい気持ちでいっぱいでした。

人工林の美しさ 本間 富雄

ニドムというのは、アイヌ語で「豊かな森」という意味だ。ホテルニドムの敷地に入ると、まず、北海道の秋の美しさに感動する。それは自然林でなく人工林だからだ。自然は、絶えず荒廃と再生を繰り返す。人に恵みを与えると共に、災害をもたらす。だから人は、自然に感謝すると同じように、自然を恐れ畏敬の念を抱く。この幽玄の森の一角に、バーンスタイン記念館があるのは象徴的だ。

考えてみれば、オーケストラの音色というのは自然音ではなく人工音だ。楽器のさまざまな音色を組み合わせ、合成し、時間の流れを音符を使って表現し、自然の風の音や川のせせらぎより、さらに巧みな快い感動を引き起こすように設定された芸術作品だ。指揮者は図面を引き、采配を振るマイスターだ。バーンスタインが、この森の中で、心身をいやし、構想を練ったという話は十分に納得できた。

北海道教育大・関先生に聞く

— 「PMFの魅力と研究」 —



北海道教育大学の関鎮京准教授（岩見沢校アートマネージメント音楽研究室）は、芸術文化の多方面の領域を研究していますが、近年「PMF」の音楽ファンに関する研究を深めております。今年は「PMFを応援する会」も協力して「アンケート調査」を重ねました。そこで、本紙では、研究の一端をうかがうべく先生にインタビューをお願いしました。

Q 関先生は2006年に北海道に来られて現場に即して教育・研究に取り組まれていますね。

A 「はい。芸術文化のアートマネージメントが専門で、特に「日本と韓国の文化政策」から「音楽の顧客マネジメント」まで幅広く研究してきました」

Q 北海道の音楽状況、そしてPMFについてはどのように見ておりますか？

A 「本道はあまり因習にとらわれない風土があります。50年の歴史を持つ札幌、世界的に優れたホールのKitara、そして国際的な教育音楽祭PMFなど、音楽関係者とファンには多くの“宝物”があり、フロンティア的で独自性ある音楽土壤が魅力ですね」

Q PMFの研究もいっそう本格化しているようですが。

A 「PMFのファンの方々にもそれぞれの好み、関心、期待などがありますが、私はいまファンの“聴衆”としての多面的な要素分析とその成長（発展）の可能性をテーマに研究しています」

Q まもなく研究結果がまとまるということですが、研究のなかで調査対象のひとつ「PMFを応援する会」を客観的にどうご覧になっていますか？

A 「応援する会は、①PMFの多くの「個人」ファン一人一人がPMFと持続的に関係性を持っていたところに、アクティブな活動推進者たちが新に「団体」を組織してコミュニティを形成していること、そして②PMFの各組織とは対等な「パートナー」の関係でありつつ、一般市民や観衆との間の「PMFコミュニケーター」の役割を目標としていることが特徴です。私の今回の研究では、PMF諸組織と聴衆やボランティアとの関係性、及び「PMFを応援する会」の事例を取り上げながら聴衆の動態的進展の可能性を考察します。その上で、PMFを更に発展させる聴衆マネジメントの課題やその在り方を探ります」

Q この調査と研究が、私たちファンのPMFへの期待に応え、多くの課題提起や可能性を与えていただけますようお願いしております。ありがとうございました。

【ニュースファイル】

PMFが被災地支援に2124万円

（公財）PMF組織委員会の発表によると、東日本大震災の被災地支援に関して、芸術監督のファビオ・ルイジ氏らアーティストからの寄付金や、チャリティコンサートのチケット収益金、演奏会場での募金などで約2124万円の寄付金が集まった。寄付金は全額、被災地の学校で破損した楽器の修理や購入費、音楽活動の支援などに充てられる。今年のPMFは札幌市などで計38公演を行い、入場者は4万114人を記録した。

編集後記

3・11と9・11。

11という数字には何の意味ももたない筈なのに現代を生きる人間には衝撃的な数字になってしまった。あの大震災から8ヶ月が過ぎようとしているのに今だ復興の“兆し”さえ見出せないことに怒りさえ覚えます。その絶望的な暮らしの中のいくつかのシーンで“音楽が生きる力”になることを何度も体験させてもらった。あらためて“音楽は力になる”と確信した。近日中にPMF2012の概要が発表される筈。PMF2012が新しい“希望の力”になることを期待しながらその発表を待ちたいと思う。（ち）

発行 PMFを応援する会

〒005-0854

札幌市南区常磐4条2丁目17-13

「カフェ・ディ・レニー」内

FAX：011-827-5181

お問い合わせ

080-6064-7811（夜6時以降）

<http://pmf-support.main.jp/>

印刷協力 株式会社マルシン